



発行者／青森県中小企業家同友会 〒030-0931 青森市平新田字森越 12-28-2F
TEL017(752)0171 FAX017(752)0170 URL/http://aomori.doyu.jp/ E-mail/info@aomori.doyu.jp



第21回経営研究集会 in 青森

10 月12日(水)、青森県中小企業家同友会「第21回経営研究集会」が、青森市の観光物産館アスパムで開催され、会員・ゲストを含め92名が参加しました。

基調報告は、京都同友会の日祥化工(株)前川順氏にお越しいただき、「みんなで拓こう、子どもたちの未来～社会的養護で暮らす子どもたちの応援団とは～」と題して報告いただきました。

続いて、3つの分科会では、「一人ひとりが尊重される社会へ～地域の課題から目を背けない。京都同友会の取り組みから学ぶ～」 「本業の洗練で見えた活路～いま食べたい、また食べたいお豆腐づくり～」 「同友会活動と企業経営は不離一体」と題して、それぞれの報告者の実践報告をもとに活発な議論が交わされました。

分科会は基調報告に引き続いて京都同友会から前川順氏、北海道同友会より日乃出食品(株)工藤英洋氏、福島同友会より光栄電気通信工業(株)嶋原健太郎氏に報告いただき、各県の同友会からも沢山ご参加いただきました。

懇親会はコロナ禍により、しばらく全県行事での開催ができていませんでしたが、今回は久しぶりに参加者同士が交流を深める事ができました。



青森支部例会

担い手を集め、育てていく。
～経営指針の着実な実践～



◆報告者◆
(株)木村タイル工業
代表取締役 **木村 稔 氏**
(青森支部)

(2022/9/21 参加 26 名)

★★★ 感想文 ★★★

(株)木村タイル工業の木村社長は、2015 年に経営指針を創る会を受講し、担い手不足が叫ばれる建設業界で、着実に若手人材を採用、育成しています。会社の認知度を上げるため、高校生に向けてのタイル張り体験、モザイクタイルを使ったイベントを開催。社長が掲げるテーマ「ものづくりを楽しむ」、「タイル職人をかっこよく！」を社員と一緒に大きな達成感とやりがいを共有し、明るい職場環境を実現しています。

社長自ら目標に掲げる「社員が安心して定年退職を迎えられる企業」を目指し、社員への感謝の気持ちを常に忘れず、自分自身が魅力的にならないといけないという強い意志に感銘を受けました。福利厚生事業も積極的に取り入れている社内環境において、旅行業としても何かしら協力提案させてもらえるような、自分のモチベーションを上げるすばらしい報告例会でした。

記/(株)日専連旅行センター 営業部長 唐牛 直人 氏

八戸支部例会

「おかしのくに」の未来は
働きやすい職場づくりから
～社員さんの意識が変わったきっかけは…！～



◆報告者◆
(株)菓子卸センター坂下商店
代表取締役 **坂下 静香 氏**
(八戸支部)

(2022/9/29 参加 32 名)

★★★ 感想文 ★★★

『働きやすい職場づくりの実践を聴いて』

(株)菓子卸センター坂下商店さんは来年で百年を迎える事に、まず拍手をおくりたいです。

坂下社長は同友会に入会して「聴く」ことの大切さを知って経営指針をつくり、実践してきた事がすごいと思いました。私は以前から商品開発をしたいと聞いていたので応援していました。自分の会社も変わらなければと言っていた事が実現し社員達との関わりもとても良好でうれしく思いました。でもそれは社長の社員を守るという強い意志からきています。3S活動の実践と、社員にわかりやすいシステムをつくる事や職場環境を整える事にも、努力を重ねてきた事が伺えます。特に社員共育委員会での研修に社員も参加し、学ぶ事が多いと感謝されています。色々と実践してきた結果、有休取得率のアップと誕生日有給休暇を実施しているとのこと。当社でも生かしたい事は、仕事のチェンジ、多能工化の実施と生産性向上の為の各部内の見直しです。

記/(有)静岡屋 専務取締役 金山 和歌子 氏



↑ 9/22 津軽支部例会 参加者 13 名



↓ 9/30 上十三支部例会 参加者 21 名





↑ 9/26 下北支部例会 参加者 12 名



女性部会見学例会

75歳で起業した スーパーレディから学ぶ



◆報告者◆

桑田 ミサオ 氏

(五所川原市)

(2022/9/29 参加 16名)

★★★ 感想文 ★★★

桑田さんに会うまでは、95歳になっても働いている人ってどんな感じの方なのだろうと思っていました。お会いして感じたことは、見た目以上に、とても大きな人を感じました。作業場での対面でしたが、95歳とは思えないほど元気で、明るく、背筋がシャンとしていて凄いオーラを感じました。作業場では笹餅の作り方を丁寧に説明していただき、すべての工程を一人で作業しているという事に驚きました。何事にもこだわりがあり、今以上の美味しい笹餅を作るため日々、試行錯誤していることには頭が下がる思いです。小さいころから母親から、わからないことは何でも聞いた方がいいと教えられた為、何に対してもわからないことがあれば、自分で調べたり人に聞いたりして覚えるという事が身についたそうです。その教えが原動力となっているのかなと感じました。

手作りの美味しさが人気となり、地元スーパーでの販売をきっかけに75歳で起業したと聞き、人は年齢に関係なく進む目標があれば、パワーと勇気があふれ出てくるのだなと感じました。何より、桑田さんの人柄が周りの人を元気にする力となり、桑田さんの笑顔が安心感を与える、そんな桑田さんが作る笹餅だからこそ、人気なのだと感じました。全て手作りの為、スーパーには週2回の納品との事ですが、わずか2分で340個の笹餅が完売すると聞いて、凄い人なのだと改めて思いました。桑田さん本人に会えた事、話を聞いた事は、これからの自分の生き方に勇気と明日への活力を頂きました。今回は、貴重な時間をありがとうございました。

記/東管工業(株) 正村 ひとみ 氏

青森支部ガイダンス

サッカーを通じて青森を元気に



◆報告者◆

(株)ラインメール青森FC

チーフマネージャー

井上 晴雄 氏 (青森支部)

(2022/10/18 参加 12名)

★★★ 感想文 ★★★

「サッカーを通じて青森を元気に」のテーマのもとラインメール青森FCのチーフマネージャーの井上さんの報告を聞きました。キラキラとした眼で元気にあふれ、日焼けした顔が印象的な方というイメージから報告を楽しみにしていました。

大阪出身の59歳。教員としての20年余りのキャリアから熱血教師のような感じを抱きました。しかし、教員時代に三度、生徒に関係した事故を体験し、家庭環境や突発的なことなどから本人の意思とは関係なく命を亡くすという悲しい経験をされ、それでもスポーツに対する情熱を失わず、選手や地域を元気にしたいという井上さんの意気込みに感動しました。スポーツ観戦は楽しいですし、応援する選手やチームが勝ったり負けたりしても頑張っている選手を見ていると嬉しくなります。

報告後の質疑応答では、ラインメール青森の名前は知っているけど、選手一人ひとりの名前や顔が出てこないのも、もっとアピールして地元のサッカーチームをみんなで応援して盛り上げたい、距離感を縮めて、自分の推しメンの名前がそれぞれ出るくらいまでにもっていきたい、試合の観客数も増えてグッズの売り上げなどが伸びれば経済効果や地域に元気をもたらす存在になれるのではないかと話が出ました。

どんな仕事でも、ファンを創るということが必要なのだなとつくづく感じました。

記/(株)太陽不動産 代表取締役社長 櫻庭 敬子 氏

圧倒的な 発想転換

《《 参加者感想文 》》

2022.09.15(木)-09.16(金)開催

➤(株)岩岡 代表取締役 岩岡 隆雄 氏

兵庫県神戸市にて2,230名余りの全国の経営者が一同に集まる三年ぶりの開催。しかも、リアルにこだわる大会でした。

私の参加した第14分科会も1テーブル10名の円卓がなんと15テーブル、153名が会場にいます。懐かしい光景ですがコロナを感じさせない景観と兵庫同友会会員のおもてなしと熱意が伝わってきました。分科会は(株)ソー代表取締役中島賢太氏(神奈川同友会会員)の実践報告です。テーマは「やりたい事を全部やれ!」。タイトルに惹かれ多分社員をモチベートするモノだろうと想像しつつ参加しました。

幸せな社会をつくるために自分たちで出来る事がキーワードになっていました。これは幸せな会社を創るためでもあり、自分が何をしたいかを自ら考え行動する組織に変わっていくプロセスを報告して頂きました。立ち止まっても眺めは変わらない、行動した人しか見えない景色がある。このように実践した感想を述べられていました。まずやる、後で直す。青全交は青年経営者ならではのバイタリティを感じますし、会場の熱はグループ討論中、隣のテーブルからも熱が伝わってきます。そして、その原動力が兵庫同友会の学びは経営指針とMGを両輪で回していることに気づきました。グループ長と兵庫同友会の会員はすべてMGを経験していました。経営指針は青森同友会(宮城方式)とは異なり短期間で作成する手法をとっていますが、学び方の方法に違いを感じました。同友会は人を生かす経営ですが、MGはドラッカーの、企業はどうあるべきか、現代の経営で説明しています。この考え方は同友会とMGがまったく一緒であり、企業の人間的側面をよく表していると深く感じる事が出来ました。

報告はノウハウではありませんので、社員の

やりがいは何をしたら嬉しいのかの問いかけである。このように話が進みました。伝わらない社員はアンチと解釈されがちですが、本当にいやなら辞めている。伝わっていないか、社員を受け入れていないか、これは社員を認めているかどうかになります。社員の人生の半分は仕事をしている時間ですので、人を成長させる組織であるべき、との想いが伝わってきました。仕事時間の中で、生きがいや働きがいを感じることが人生の幸せにつながると思います。



➤(株)アイティコワーク 代表取締役 觸澤 篤司 氏

第50回青年経営者全国交流会 in 兵庫に参加してきました。青年部会設立間もないこともあり、青年部のあり方や青年部活動への向き合い方を知りたくて、中同協青年部連絡会代表である(有)ウメイチ代表取締役梅田益生氏がパネリストとして参加している第1分科会に参加しました。また、青全交終了後に中同協青年部連絡会にも出席させて頂きました。

「青年部は、同友会の三つの目的のうち、『良い経営者になろう』に特化している」これは梅田代表が分科会の締め間際に話した言葉です。先人の知恵や経験を吸収し、同世代の経営者から刺激を受け、全国の仲間と繋がり、次世代リーダーとして全人格的成長を遂げる。自身にとって、多くの課題が見つかり、大きな学びとなった旅路となりました。



➤(株)岩岡 専務取締役 岩岡 慎雄 氏

第一分科会での学びは、同じ悩みを経験した先輩から、学ぶことができるのが青年部。同友会青年部で体験し学んだことを会社へ持ち込む。さらに素直であることが、経営者として成長の必要条件ということ。そして率先垂範が大切ということを知ることができました。記念講演の学びは、3S 活動とは心に磨きをかけることです。また、商品カテゴリーは売り手の思い込みであり、お客様から求められている本質に気付くこと、競合ライバルと一緒に市場創造していくことの大切さを学びました。まずは、素直で率先垂範の姿勢づくりから取り組み始めます。



➤高進機工(株) 代表取締役 寺澤 憲司 氏

私は第8分科会で発表者は長野同友会の(有)テツカ精機代表取締役手塚良太氏36才、同友会歴11年目にして会社存続の危機を乗り越え売上20倍増の10億円に届く勢いのあるツワモノでした。

会社を引き継ぐにあたり先代から言われたのは「どういうやり方でもいいから好き勝手にやって見ろ！」ただそれだけで何もなかった。ある意味やりやすかったかも？だけど現実には甘くなく何をやってももうまくいかずにいた時、地域の先輩に相談したら、同友会に入り理念を創れと半ば強制でした。指針創りでは社員にアンケートを取り父の想いと社員の想いを参考にして理念を作りました。結果、社員にも浸透して現在は100名を超える企業に成長しているとのこと。社員を輝かせる(やる気)のは経営者の仕事。ルールがあるから自由に動ける、戦略は幹部、戦術は現場、社長は旗を揚げ続ける！これが社長の信条！！だと学びました。

グループ討論では8人テーブルでグループ長を始め、みんな青年実業家ばかりで子会社を2～3社作る(持っている人も居た)予定のある人が何人もいて熱く語り合う場面があり、若い人のエネルギーを貰い今後の参考にしていきたいと思いました。

➤(株)フードプロセッシングファクトリー 代表取締役 山崎 功造 氏

私は1科会に参加しました。同友会に入っところは通帳残高が15万円しか入っていなかった人が、一人の同友会会員が親身になり色々と教えてくれたおかげで会社を立ち直らせる事が出来たという話を聞きました。大勢の人が色々アドバイスするのではなく一人の先輩が、決められた事をやっているか等アドバイスをし、色々なことを確認するという体制でした。日々前進することは素晴らしいことだと思います。青森同友会も2～3人のグループを作り取り組めたらいいと思いました。

来年の広島青全交は3社見学できるよう参加したいと思いました。



➤(株)想い工房 取締役 吉田 亮子 氏

分科会は「100年の伝統×次の100年に向けた変革」と題して、山形同友会の(株)大久保硝子店代表取締役専務大久保徳朗さんの報告でした。大久保さんは100年硝子を買ってきた会社の5代目です。入社した当時は売上主義のブラック企業へ一直線だったそうです。大久保さんは同友会がきっかけで、100年の自社の歴史に感謝し、事業領域を拡大する事になります。会社のビジョン、個人のビジョンの融合で、共育ちをしながら会社全体を成長させていく。現在は窓(硝子)を通して、窓の内側(室内を装飾するものづくり)と窓の外側(ガーデニング)へと事業を拡大しています。その発想は社員さんとともに出てきたものでした。本業からかけ離れる事も無く、硝子を通じて夢が膨らんでいく報告でした。討論は共育ちについてでした。社員さんを生かす仕組みづくり、自分の会社だと思ってもらうことが大事です。



➤(同)こん機工 代表社員 今 政敏 氏

今回参加して、全国大会というものの熱量に驚きました。それが一日目の分科会に特に表れていたように思いました。

発表者である東京同友会の(有)安田製作所、安田社長が持つ自己成長への熱意。そしてグループ討論での、その日初めて会った経営者同士の「成長」についての熱い討論。5時間という長丁場にも関わらず、熱く濃い内容により、あっという間でした。この熱さと濃さに、同友会の真髓の一端を見た気がします。

今年の青全交は、経営指針を創る会の第5講としての参加という側面もありましたが、機会を設けて再び参加したくなる、有意義な時間となりました。



➤(株)大坂組 専務取締役 大坂 将史 氏

『他県の情報に触れて』

元歌舞伎町 No.1 ホストが倒産寸前の親の会社を引き継いだ(株)climb 取締役社長の佐々木亮太郎氏(北海道)の報告を聞きました。ホスト時代に培われた負けず嫌いな性格で人一倍ケーキ作りを練習し知識と技術を身に付け、お客さんの希望に沿った商品を提供し仕事を獲得していったそうです。またコロナの影響により券売機での販売を開始、そして同友会でアドバイスを受け即行動し、日本で初めての冷凍自販機でのケーキ販売を実現したとのこと。経営者は「仕事に対する高い理解」と「行動力の速さ」が次のステップへ進む必要な要素であると感じました。

(株)デジアラホールディングス代表取締役会長の有本哲也氏のお話を聞き、ポイントは「情報力」だと感じました。全国へ向けたネットでの受注・施工を目指し、自動積算システムの開発や各地域の企業との連携、お客さんの声を集めるなど経営者が情報を集め積極的に取り組んでいたからこそ大きく成長されたのだと感じました。

今回参加して各県の方々とグループ討論が出来て良い刺激になりました。また全体を通して「仕事や社員の理解・距離間」「社員との方向性の一致」が大切であると学ぶことが出来ました。

➤青森県中小企業家同友会 主任 松田 康太郎

今回の青全交は、約 2,200 名の経営者が全国から集いました。私が参加した分科会は、(株)いれ歯やさん代表取締役熊谷佳之氏(兵庫)の報告で、テーマは「志針は、未来を約束する。」でした。参加者の中には、経営指針書を作成する事に迷っている方もいて、経営指針というものはどういうものなのか？という入り口から、そこから自身の苦労していた時代の話をして頂きました。

指針書 5 冊目から会社が変わってきたと、社員さんは皆口を揃えて話されたそうで、当時 1 冊目を一緒に作成した社員さんに「社長、この指針書ダメですね。想いが入っていない」と現在も指摘されているそうです。「経営指針は現在を見つめて未来をイメージし、社員や関係者に伝えることができる素晴らしいツール。経営指針がなくても、業績が上がる会社は沢山あるけど、あったほうが楽だと思う」という報告でした。

二日目には、中同協青年部連絡協議会に参加し、各県の青年部代表の方々と交流しました。どの方も同友会に対して熱い想いを持っていて、青森も負けていられないと思いました。

10 月理事会報告 於:Zoom 2022.10.3(月)

1)年度方針の確認

- 青森同友会新年度(2022 年度)重点活動方針
- 青森同友会 3 カ年ビジョン(2020~2022)

2)報告事項

- 青森同友会の各種全県事業と全国行事について

- ①10 月の各支部予定
- ②第 50 回青年経営者全国交流会 in 兵庫
- ③第 39 回中同協役員研修会
- ④第 53 回中小企業問題全国研究集会 in 長野

- 支部長会議について

- 第 19 期経営指針を創る会の状況について

3)審議・確認事項

- 青森同友会の新型コロナへの対策について
- 第 21 回経営研究集会について
- 年度会勢目標に向けての取り組みについて
- 各支部、委員会からの報告

会員数 406 名 / 入会 2 社 退会 4 社

【次回開催日】2022 年 11 月 2 日(水) 13:30~/事務局